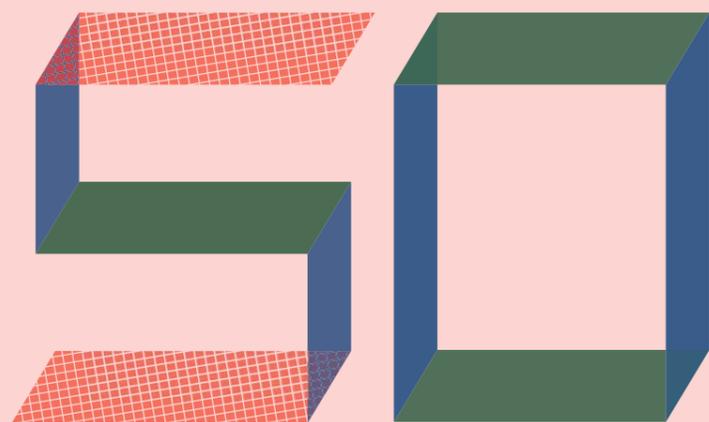


ふるさと
ONGA TOWN



遠賀町町制施行 50 周年記念誌
50th Anniversary Memorial magazine



遠賀町

遠賀町町制施行 50 周年記念誌

「ふるさと」

発行 遠賀町役場

〒811-4392

福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀 513 番地

TEL 093-293-1234

FAX 093-293-0806

URL <http://www.town.onga.lg.jp/>

遠賀町ができるまで



昭和4年、浅木村と島門村の合併を記念して遠賀村役場前で撮影されたもの。遠賀村の先達は、ここから遠賀町の礎を築いていきました。

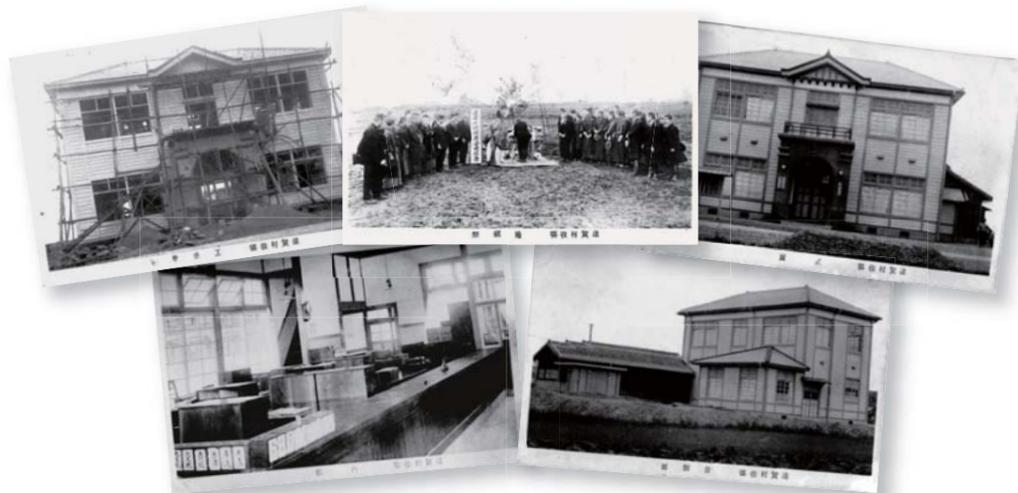
ふ
る
さ
と
遠賀町町制施行50周年記念誌

目次

01	第1章 遠賀町ができるまで
02	おんが年表（昭和4年～昭和38年）
04	産業を知る
06	遠賀村 昭和20～30年代商店街MAP
08	鉄道の記憶
10	水害を今に伝える
11	第2章 躍動する遠賀町
12	おんが年表（昭和39年～昭和64年）
14	すすむ宅地開発
16	活気あるまちへ
19	第3章 成熟する遠賀町
20	おんが年表（平成元年～平成25年）
22	水と共生する町 おんが
24	「おんが」のスポーツ・文化・レクリエーション
26	「おんが」のまつり
28	遠賀町町制施行50周年記念誌発行にあたり

PICK UP

遠賀村役場庁舎完成記念絵ハガキ



遠賀村役場庁舎の完成を記念して、地鎮祭の様子や建設中の庁舎、完成した外観や庁舎内を収めたものなど5枚1セットにして、関係者に配られました。

おんが年表

1929

昭和4年

1963

昭和38年

遠賀村のあゆみ

世の中の動き

昭和4年、合併により遠賀村が誕生しました。国道3号線（現在の県道299号線）や役場庁舎・学校などの主要施設が整備されていきました。

- 昭和4年 ● 遠賀村誕生
- 昭和6年 ● 国道3号線完成
- 昭和6年 ● 遠賀村役場庁舎完成
- 昭和13年 ● 合村10周年記念式
- 昭和22年 ● 国鉄芦屋線開通
- 昭和22年 ● 遠賀中学校開校
- 昭和23年 ● 遠賀村農業協同組合設立
- 昭和25年 ● 遠賀川保育園開園
- 昭和28年 ● 遠賀川堤防決壊大洪水
- 昭和30年 ● 遠賀村簡易水道浄水場完成
- 昭和30年 ● 遠賀川大橋完成
- 昭和34年 ● 山びこ保育園開園
- 昭和34年 ● 南部保育園開園
- 昭和36年 ● 国鉄芦屋線廃止

- 昭和12年 ● 盧溝橋事件、日中戦争勃発
- 昭和14年 ● 第2次世界大戦勃発
- 昭和20年 ● 第2次世界大戦終結
- 昭和22年 ● 日本国憲法施行
- 昭和25年 ● 朝鮮戦争勃発
- 昭和33年 ● 東京タワー完成
- 昭和34年 ● 皇太子殿下・美智子様ご成婚



遠賀中学校

高台にある建物は、昭和30年代の遠賀中学校の木造校舎と講堂。前の道は国道3号線です。



遠賀川保育園

遠賀川保育園でのお昼のひととき。当時の記録によると園児は50人で、園長1人・保育士2人・事務員1人の合計4人で運営していました。



遠賀村農業協同組合

昭和23年に設立された遠賀村農業協同組合。その後合併を重ね、昭和39年には遠賀郡農業協同組合、平成21年には北九州農業協同組合となりました。



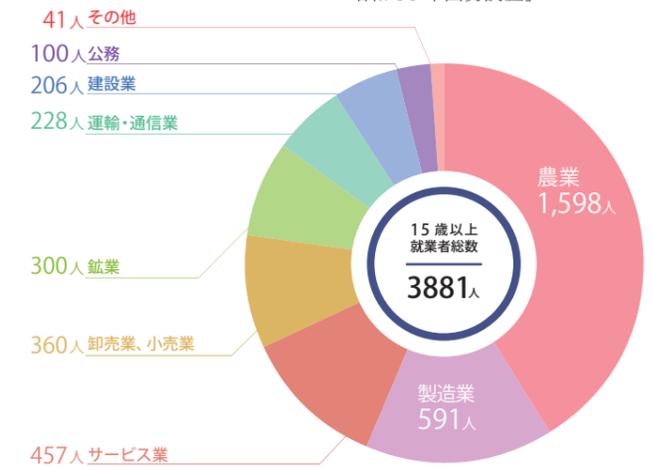
遠賀村役場

昭和6年、国道3号線沿いに遠賀村役場庁舎が完成（現在の遠賀川郵便局と遠賀町商工会のあたり）。当時は車の往来がほとんどありませんでした。

産業を知る

— 農業・瓦製造・炭鉱 —

【産業別就業人口】
「昭和35年国勢調査」より



当時の遠賀村では、農業と製造業に関わる人が、就業者総数の半数を超えていました。
農家では、機械化が進む昭和40年代まで、労働力の不足を補うために、「年雇制度」として年間契約で各地方から働き手を雇っていました。

製造業は、主に炭鉱住宅の屋根瓦を製造していました。しかし昭和30年代後半には、石炭から石油へのエネルギー転換が進み、遠賀村近辺の鉱山も次々に閉山。それに合わせて瓦工場も次第に姿を消していきました。



農業

この頃の農作業は手作業で、農家では牛や馬も重要な労働力として飼っていました。また、天草や壱岐などから働きに来た人もいました。



瓦工場

昭和15年頃、遠賀村には18軒もの瓦工場がありました。瓦の材料は、田んぼの表土をはいだ粘土質の部分。瓦の形にして乾燥させ、窯で火の色を見ながら約800度の温度で焼きました。



▲瓦を窯で焼く前に外に並べて乾燥させている様子。



▲今も残る石炭を運ぶための巻上げ機を固定した台座の遺構（遠賀中学校敷地内）



炭 鉱

別府にあった炭鉱の関係者と思われる人たち。現在の遠賀中学校から東へ掘り進むうち、遠賀川に突き当たり坑内に大量の水が出たため、掘り続けることができなくなり短い期間で閉鎖されました。

遠賀村
昭和 20~30年代
商店街
MAP

遠賀村の商業の中心は、遠賀川商店街でした。旅館や日用品店など多くの商店が立ち並び、買い物客や国鉄を利用する通勤通学の人々などで、商店街は大変にぎわっていました。



1 新川橋礎石
国道3号線の開通工事の際に建てられた新川橋の礎石。「昭和4年12月」と刻まれています。



2 バイクにまたがる男性たち
遠賀村役場前の広場で、ツーリングに出発する前の職員達。写真右上の看板がある建物が土師薬局、一軒隣の建物が白石材木屋です。



遠賀川駅から発車する列車を待つ間、乗客が森田酒店で「角打ち」をしていました。出発時間を駅員が酒店に電話で知らせていました。

現在の歩道橋ができるまでは、遮断機の上げ下げを行う「踏切り番」がいました。

棒つきのアイスキャンデーは大人気で、飛ぶように売れていました。

大成館は米軍専用の酒場でした。その後、パチンコ店や駐輪場になりました。

4 永田理容店 永田美容院
当時の建物が今なお残っている永田理容店と永田美容院。アーチ状の屋根が、時代を感じさせます。



空地では、紙芝居屋のおじさんが売るお菓子を手に持つ子や、ベベんこ(肩車)された子が、夢中で紙芝居に見入っていました。



遠賀川駅前には蒸気機関車を走らせるために必要な、給水塔や石炭置き場がありました。

※この地図は、昭和20~30年代の商店街の様子について、当時のことを知る人に話を聞きながら作成したものです。そのため、商店の位置や商店名など、事実と多少異なる場合があります。

3 荒牧文房具店
昭和28年の大洪水で、1階の軒下まで浸水しました。平成16年の駅前広場の整備で、当時の建物は取り壊されました。



鉄道の記憶

— 遠賀川駅と鉄道 —

遠賀川駅の歴史は長く、明治23年の開業以来、120年以上になります。遠賀川駅を起点とした3路線。芦屋軽便鉄道は貨車や客車として、国鉄芦屋線は米軍基地への物資や労務者の輸送のための路線として、国鉄室木線は明治時代から石炭や旅客の輸送線として、遠賀・鞍手一帯の交通を担いました。

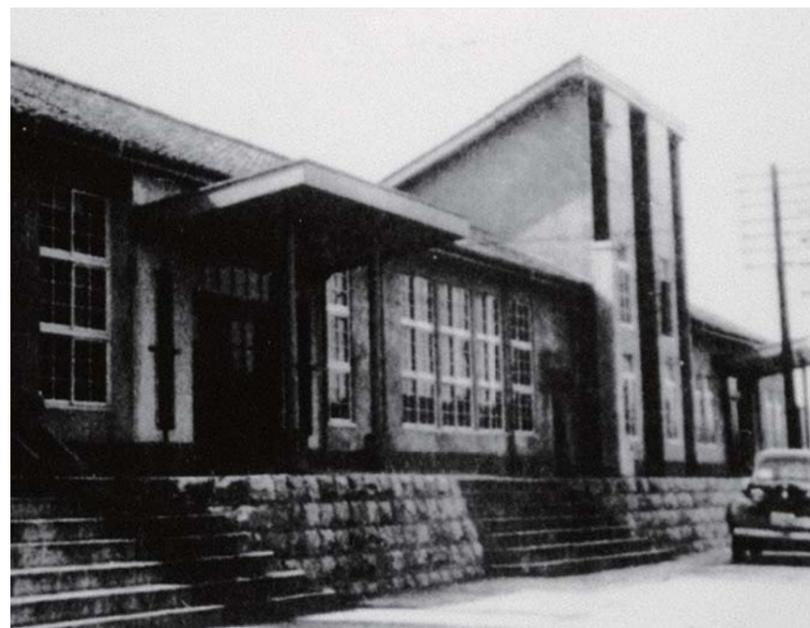
遠賀川駅のあゆみ

- 明治23年 ・九州鉄道会社により遠賀川駅開業
- 明治40年 ・鉄道国有法により九州鉄道会社を国有化
～ 国鉄室木線の石炭輸送や鹿児島本線の複線化を想定し、駅構内の拡張工事を行い、駅舎を200m西（現在の場所）に移転する～
- 明治41年 ・国鉄室木線開通
- 大正4年 ・芦屋軽便鉄道株式会社創立
- 昭和6年 ・芦屋軽便鉄道廃止
～ 跡地は国鉄芦屋線に活用される～
- 昭和21年 ・RTO設置
- 昭和22年 ・米軍指示により駅舎全面改装
・国鉄芦屋線開通
- 昭和25年 ・国鉄芦屋線一般旅客取り扱い開始
- 昭和27年 ・RTO廃止
- 昭和36年 ・国鉄芦屋線廃止
- 昭和49年 ・国鉄室木線最後のSL機関車運行
- 昭和60年 ・国鉄室木線廃止
～ 「さよなら列車」運行～
- 昭和62年 ・駅舎改装、改築
～ 洋風の駅舎に生まれ変わる～



国鉄芦屋線

運行期間と運行距離の短さから「幻の路線」とも言われている国鉄芦屋線。筑前芦屋駅前を走っているときの様子です。これと同じ形の8620形の蒸気機関車は、遠賀総合運動公園に展示されています。

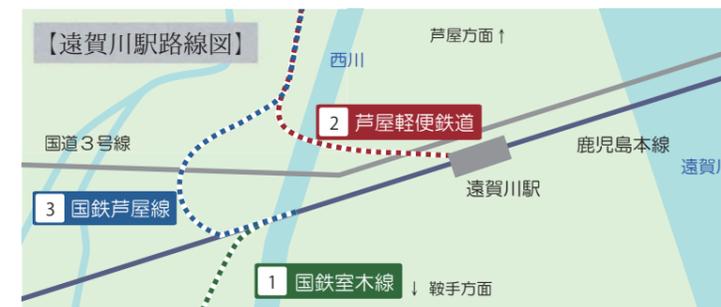


▼RTOの室内は、洋館造りで天井は高く、室内は広々としていました。



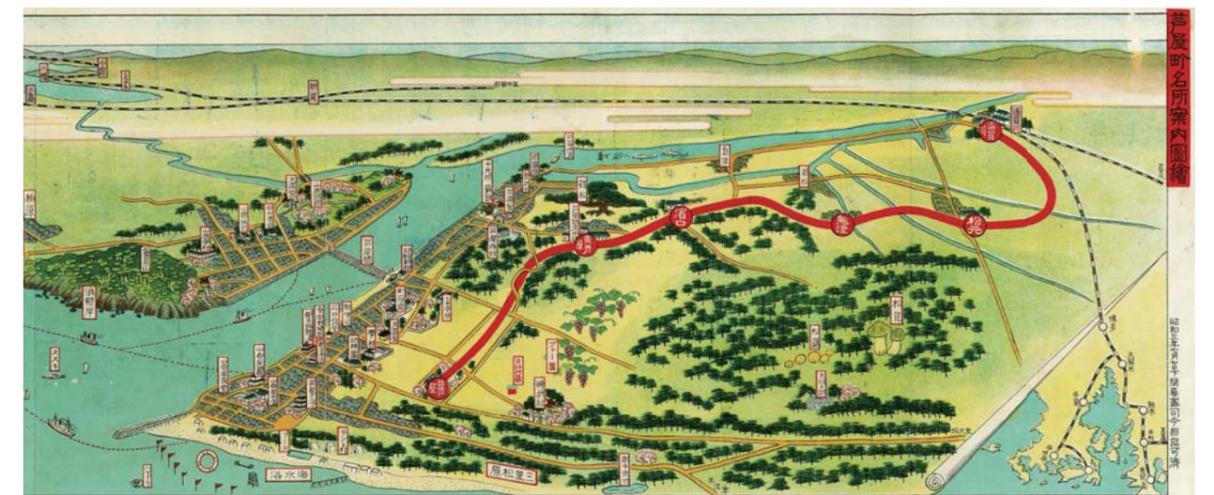
R T O

鹿児島本線の基幹駅だった遠賀川駅には、米軍の物資や労務者の輸送に関する指令を出すRTO(Railway-Transportation-Office)が、駅の中に設置されていました。RTOは、米軍関係者以外は入る事ができなかったそうです。



1	国鉄室木線	1908～1985年(5駅)※ 11.2km
2	芦屋軽便鉄道	1915～1931年(6駅)※ 6.1km
3	国鉄芦屋線	1947～1961年(2駅)※ 6.4km

※起点駅を含む



芦屋町名所案内図絵

昭和初期に描かれたもの。遠賀村から芦屋町まで続く赤い線で文字が入っているものが、芦屋軽便鉄道の停車駅を表わしています。

躍動する遠賀町



春休みに新一年生の歓迎と進級を祝う行事「及第籠り」。遠賀川地区では女の子だけでごちそうを食べて、みんなで遊んだ楽しい一日でした。

水害

を今に伝える

— 昭和28年の大洪水 —

昭和28年6月、記録的な豪雨により遠賀川の堤防が決壊し、村内に甚大な被害をもたらしました。
3日間降り続いた雨によって村全体が浸水し、避難できずに取り残される人もいたといいます。水が引いた後の片付け作業も、大変なものでした。
大洪水は、忘れてはいけない教訓として、後世に語り継ぐ必要があります。



▲写真の左側が遠賀村。奥の左右に伸びているのが線路。村全体が水没していることが分かります。



▲西川方向から遠賀川駅に向かって撮影したもの。本州・九州間の通行も途絶えました。



被害の様子

家財道具を運ぶ人や船で避難している人の様子。奥に見えるのが遠賀川駅です。雨水は道路を超え、商店街を飲み込んでいきました。雨水は一時軒下まできたため、住人は2階の窓から避難したといいます。浸水した跡が今でも残っている建物もあります。

PICK UP

国道3号線遠賀バイパス開通



遠賀大橋と遠賀川橋(手前)の様子。昭和49年に国道3号線遠賀バイパスが開通し、北九州や福岡へのアクセスが良くなりました。

おんが年表

1964

昭和39年

1989

昭和64年

遠賀町のあゆみ

- 昭和39年 ● 町制施行により遠賀町誕生
- 昭和40年 ● 第1回町民体育大会開催
- 昭和43年 ● 遠賀中央幼稚園開園
- 昭和47年 ● 遠賀町役場庁舎移転
- 昭和49年 ● 町制施行10周年
- 昭和49年 ● 国道3号線遠賀バイパス片側2車線開通
- 昭和50年 ● 遠賀町中央公民館完成
- 昭和52年 ● 遠賀町学校給食センター完成
- 昭和52年 ● 広渡小学校開校
- 昭和52年 ● 中学校学校給食開始
- 昭和54年 ● 町営遠賀霊園完成
- 昭和55年 ● 遠賀川河口堰完成
- 昭和58年 ● 遠賀町馬頭岳ハイキングコース完成
- 昭和58年 ● 子どもまつり始まる
- 昭和59年 ● 町制施行20周年
- 昭和59年 ● 遠賀町夏まつり水上カーニバル始まる
- 昭和59年 ● 遠賀総合運動公園グラウンド完成
- 昭和59年 ● 遠賀南中学校開校
- 昭和60年 ● 国鉄室木線廃止
- 昭和60年 ● 遠賀コミュニティセンター完成
- 昭和61年 ● 遠賀川漕艇場完成

世の中の動き

- 昭和39年 ● 東京オリンピック開催
- 昭和44年 ● アポロ11号月面着陸
- 昭和45年 ● 日本万国博覧会開催
- 昭和47年 ● 日中国交正常化
- 昭和48年 ● 石油ショック
- 昭和51年 ● ロッキード事件
- 昭和53年 ● 日中平和友好条約調印
- 昭和54年 ● 福岡渇水
- 昭和54年 ● 元号法成立、制定
- 昭和56年 ● スペースシャトル初飛行
- 昭和59年 ● グリコ森永事件
- 昭和60年 ● 日本航空機墜落事故
- 昭和64年 ● 昭和の時代が終わる

町制施行後、遠賀町は北九州市のベッドタウンとして、急速に人口を伸ばしていきます。小学校や公民館、遠賀総合運動公園、遠賀町馬頭岳ハイキングコースなど、町民の教育・健康・スポーツ振興に向けた施設が次々と誕生しました。



遠賀町馬頭岳ハイキングコース

標高182mの展望台からは、玄界灘や福智連山も望むことができ、運動と憩いの場所として、今もたくさんの人に利用されています。



中学校学校給食開始

遠賀町学校給食センターが完成したことにより、小学校だけでなく中学校でも給食が始まりました。



町民体育大会

つるされた蚊取り線香にタバコを近づけている第1回町民体育大会での「喫煙競争」。当時行われていた珍しい競技です。



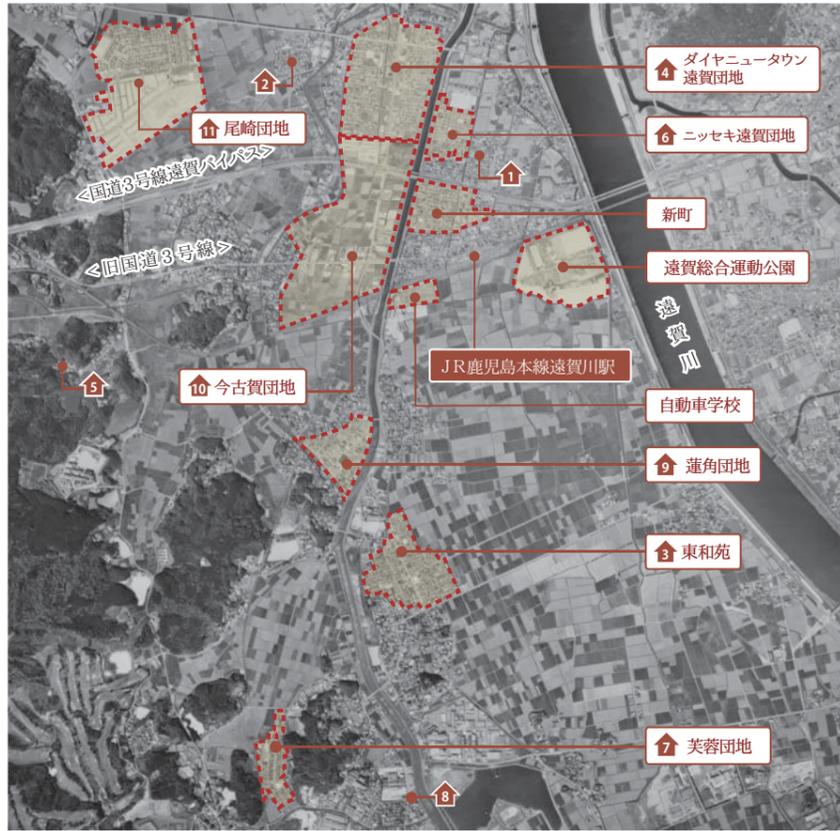
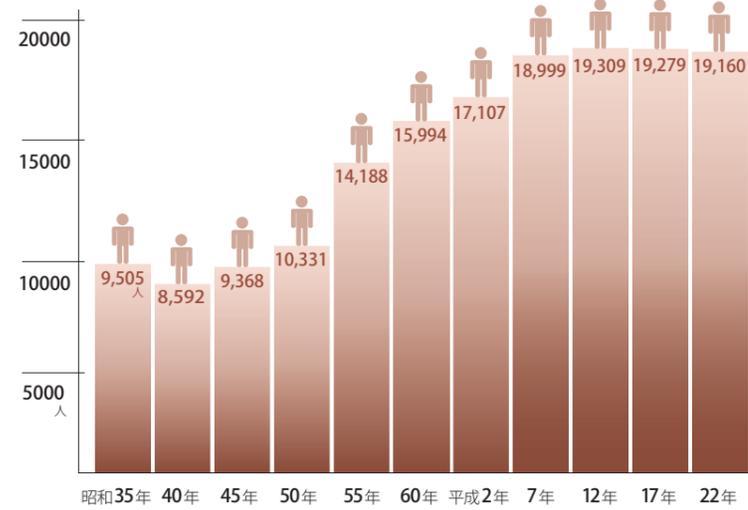
遠賀町誕生

遠賀町誕生を祝って吹奏楽隊によるパレードや子どもたちによる音楽発表会など様々な行事が行われ、町全体が祝賀ムードに包まれました。

すすむ 住宅地開発

昭和40年代の新町を皮切りに、遠賀町の住宅開発が進みました。昭和40年には約8,600人だった人口は平成2年には約1万7,000人まで増加。25年間で町の人口は約2倍になりました。

【昭和35年～平成22年の人口推移】
出典：国勢調査



宅地開発

航空写真

これは、平成元年の遠賀町の航空写真に宅地開発の状況を示したものです。

【遠賀町開発状況一覧表】

<開発許可年>	<場所>	<面積>	<計画>	
			戸数	人口
昭和48年～	1 中牟田団地(広渡)	34,468	39	160
昭和49年～	2 緑光苑(別府)	40,064	138	550
昭和49年～	3 東和苑(浅木)	132,042	401	1,600
昭和50年～	4 ダイヤニュータウン遠賀団地(今古賀・広渡)	316,661	673	3,000
昭和51年～	5 千代丸団地(別府)	5,441	13	52
昭和51年～	6 ニッセキ遠賀団地(広渡)	62,523	143	640
昭和52年～	7 芙蓉団地(虫生津)	72,920	241	1,080
昭和53年～	8 八丁団地(虫生津)	5,531	16	72
昭和54年～	9 蓮角団地(上別府・木守)	45,325	133	600
昭和56年～	10 今古賀団地(今古賀)	437,177	1,100	4,800
昭和56年～	11 尾崎団地(田園北・田園南)	350,437	940	3,570



▲昭和42年の新町の様子。国道3号線と遠賀川駅に隣接している利便性の良い場所でした。



▲住宅が立ち並ぶ現在の尾崎団地(田園北区)。

40年代 住宅開発計画が 始動



▲昭和43年の遠賀川駅周辺。遠賀川駅の北側にある新町に更地ができています。

この頃の遠賀町は、遠賀川駅前と国道3号線沿いに住宅が集中し、その他の地域には田園が広がっています。

50年代 人口の急増とともに 住宅開発もピークに

昭和50年代は、ダイヤニュータウン遠賀団地やニッセキ遠賀団地など、大規模な住宅団地の

開発が始まりました。尾崎団地は、地区を南北に分け、先に北から住宅建設が始まりました。そのほかにも、芙蓉団地や今古賀団地などの住宅開発が次々に行われていきました。



▲昭和51年の遠賀町北部。昭和43年には更地だった新町に、多くの住宅が建っています。さらに松の本にも大規模な更地ができています。

60年代 住宅開発が整い 周辺施設の充実拡大へ

昭和60年代に入ると、遠賀町の住宅開発は一段落し、遠賀川漕艇場や遠賀総合運動公園などの施設の整備が進んでいきました。



自動車学校

昭和53年、遠賀川駅のそばに自動車学校が開校しました。公共交通機関からマイカーへと、ライフスタイルも変化していきました。

遠賀高校 (旧遠賀農芸高等学校)

八幡西区則松にあった福岡県立遠賀農芸高等学校が、昭和46年、上別府地区に移転し、のちに福岡県立遠賀高等学校に改称されました。遠賀郡内唯一の県立高校です。



町営遠賀霊園

昭和54年、虫生津地区にオープンした町営遠賀霊園は、当時、西日本最大の総面積(108,198㎡)を誇っていました。

遠賀町に住む人々が増え、生活環境も大きく変わっていきます。自動車も普及し、人々の行動範囲が広がりました。

活気あるまちへ



遠賀町中央公民館

昭和50年、遠賀町中央公民館が完成しました。和裁教室や料理教室など様々な学級や講座が開かれ、町民の生涯教育環境が充実していきました。



子どもまつり

昭和58年から始まった子どもまつり。子どもたちが楽しんでもらえるようにと、子どもの日の5月5日に町をあげて様々な催し物が行われました。

スーパーマーケット

昭和52年、遠賀川駅前にスーパーマーケットが開店しました。ほとんどの食材が揃う大型店舗の出現は、当時の生活を一変させました。





遠賀川駅北地区と南地区をつなぐ自由通路の建設の様子。緑あふれる街並みと良好な住環境を目指し、遠賀川駅南地区のまちづくりの一環として整備が進んでいます。



室木線廃止

昭和49年に蒸気機関車が姿を消し、昭和60年には路線が廃止。明治41年から77年間走り続けてきた歴史に幕を閉じました。

ま
ち
へ
活
気
あ
る



パレード

町制施行20周年を記念して、ミスコンテストや歌謡ショーなど様々な催し物が行われました。揃いの衣装の踊り子や仮装した人たちが、役場前から遠賀総合運動公園までの道をパレードしました。



遠賀町夏まつり水上カーニバル アイデアいかだコンテスト

遠賀川で行われた遠賀町夏まつり水上カーニバル。速さを競う「手作りいかだ競争」とアイデアを競う「アイデアいかだコンテスト」がありました。「アイデアいかだコンテスト」では、参加者のユニークな衣装などで、会場は笑いと歓声に包まれました。

PICK UP

オリンピックメダリスト鈴木聡美さん凱旋パレード



2012年のロンドンオリンピックで女子競泳初となる3つのメダルを獲得した鈴木聡美さん。遠賀町の凱旋パレードでは銀メダルを首にかけ、約8,000人の観客に笑顔で手を振り、町で第1号となる町民栄誉賞を受賞しました。

おんが年表

1989

平成元年

2013

平成25年

遠賀町のあゆみ

- 平成元年 ●おんがふれあい釣り大会始まる
- 平成2年 ●とびうめ国体夏季大会開催
- 平成5年 ●第2期遠賀霊園竣工
- 平成5年 ●「出合いの架け橋」完成
- 平成6年 ●遠賀町ふれあいの里オープン
- 平成6年 ●中学校にALT派遣開始
- 平成8年 ●町制施行30周年
- 平成8年 ●島津丸山歴史自然公園完成
- 平成11年 ●おんがレガッタ始まる
- 平成13年 ●遠賀町立図書館オープン
- 平成16年 ●町制施行40周年
- 平成16年 ●JR遠賀川駅前広場再整備
- 平成17年 ●西鉄バス芦屋線廃止
- 平成17年 ●遠賀町コミュニティバス運行開始
- 平成18年 ●今古賀中央公園完成
- 平成18年 ●遠賀川交番が駅前に移転
- 平成21年 ●防災行政無線放送設備完成
- 平成23年 ●遠賀町中央公民館リニューアルオープン
- 平成24年 ●県道宮田遠賀線開通
- 平成25年 ●鈴木聡美さん町民栄誉賞受賞
- 平成25年 ●全国高等学校総合体育大会ボート競技大会開催

世の中の動き

- 平成元年 ●平成始まる
- 平成元年 ●消費税導入される
- 平成5年 ●皇太子殿下、雅子様ご成婚
- 平成6年 ●関西国際空港開港
- 平成6年 ●列島渇水
- 平成7年 ●阪神・淡路大震災
- 平成9年 ●地下鉄サリン事件
- 平成9年 ●消費税3%から5%へ
- 平成14年 ●日朝首脳会談により一部の拉致被害者帰国
- 平成14年 ●住民基本台帳ネットワーク開始
- 平成17年 ●郵政民営化法成立
- 平成17年 ●JR福知山線脱線事故
- 平成17年 ●九州国立博物館開館
- 平成17年 ●福岡県西方沖地震
- 平成21年 ●裁判員制度スタート
- 平成23年 ●東日本大震災
- 平成23年 ●九州新幹線全線開業
- 平成24年 ●ロンドンオリンピック開催

町制施行50周年を迎えた遠賀町。雄大な遠賀川と緑あふれる田園風景を望むこの町で、先人たちが築き上げてきた伝統や文化を受け継ぎながら、私たちは新たな遠賀町の歴史を刻んでいきます。



県道宮田遠賀線開通式

国道3号線と筑豊地区を南北に結ぶ、県道宮田遠賀線が平成24年3月24日に開通しました。今後の沿線地域の発展が期待されます。



遠賀町コミュニティバス

平成17年4月から運行を開始した遠賀町コミュニティバス。通勤通学や買い物など、町民の公共交通として利用されています。



遠賀町立図書館

平成13年にオープンした町立図書館は、蔵書数8万冊。太陽光発電システムを採用し、環境に配慮した教育・文化の中核施設として機能しています。



とびうめ国体

福岡県が開催地となった第45回国体体育大会。遠賀町にある遠賀川漕艇場が会場に選ばれ、夏に漕艇競技会が行われました。

水、 おんが と共生する町

悠々と流れる遠賀川。全長61 km、流域面積 1,026 km²の大河には支流も数多くあり、関連する水利は、遠賀町に住む人々や産業を潤し、生活を支えてきました。平坦で山が少ない地形から、水害も経験しましたが、現在では改修工事により、治水と共に景観に配慮したやすらぎあふれる河川空間が形成されています。

水鳥が戯れる姿など、穏やかな時間が流れている町。私たちは、豊かな恵みを与えてくれる水と共に、歩み続けていきます。



おんがふれあい釣り大会

平成元年から平成16年まで西川で行われていた、おんがふれあい釣り大会。遠賀町の自然に親しんでもらいたいという思いから始まり、多いときには1,300人を超える参加者が集まりました。鯉やフナ、ハゼやボラなどの様々な魚が釣りあげられました。



遠賀川河口堰

遠賀川下流域の治水と利水を図るため、昭和55年に建設されました。



塩田堰

明治20年、遠賀川の水を灌漑用に使うため、埴生塩田(中間市)に造られました。遠賀川河口堰の建設により取り壊され、昭和59年、老良の神田川記念碑前に復元保存されています。



平成22年 道路冠水

平成22年7月14日、前日から断続的に降り続いた雨により雨量が増し、遠賀町役場前や今古賀付近の道路が冠水。多くの人が足止めされました。そのためボートやトラクターを活用して、人々を安全なところへ誘導しました。



平成6年 列島渇水

連日の猛暑と降水量の少なさから、遠賀町をはじめとした福岡県全域が渇水状態となりました。遠賀川の川底が現れ、渇水の深刻さが分かります。

オニバス

国や県で絶滅危惧種に指定されている天然記念物のオニバス。夏から秋にかけて花を咲かせ、11月には種子を放出させます。オニバスの自生地である蟹喰池では、県と町共同の「オニバス再生プロジェクト」に取り組んでいます。





三輪車 4時間耐久レース

毎年体育の日に開催されるスポレクおんが。その中の種目の一つ、三輪車4時間耐久レースは、大人も子どもも一緒に参加することができる競技です。チーム対抗で1周約200mを何周走ったかを競います。

キャラクターの衣装を着てレースに参加。県外から来ました！



高校総体 ボート競技大会

平成25年度に、遠賀川漕艇場で「全国高等学校総合体育大会ボート競技大会」が行われました。



おんが レガッタ

遠賀川漕艇場で九州朝日レガッタと併せて開催され、2日間にわたって競技が行われます。ここで優秀な成績を収めた男女各1チームが全国大会へと出場することができます。

観月コンサート

島津・丸山歴史自然公園で、毎年中秋の名月に近い土曜の夜に行われます。秋の夜長に月明かりを眺めながら聴く雅楽や和太鼓の音色は、神秘的なひとときを感じさせてくれます。



「おんが」の
スポーツ・文化・
レクリエーション 

豊かな自然の中で健やかな身体を育むため、遠賀町では独自のイベントが開催されています。

好
ま
き
に
な
る
こ
の
町
が
も
つ
て

おんが泥リンピック

町内の田んぼで毎年開催されるおんが泥リンピック。参加者は泥まみれになりながらも笑顔いっぱい。声援を送る人も笑いが絶えず、みな童心に帰ってこの日を楽しみます。



泥ずもうや泥フラッグ、泥バレーなど、たくさんの競技があるよ！



こどもまつり

心地よい春風がそよぐ4月に開催され、青空おはなし会や空手の演武など、子どもが主役で楽しめるイベントが盛りだくさんです。農業振興のための活動として「夢れんげ」や「なたね油」などの地場産品の販売もあり、遠賀の魅力が満載です。



老良山笠

子ども向けイベントの一つ、働く車の試乗会。消防隊員の格好をして、消防車に乗ったよ!



島津山笠



おいらしまづ 老良・島津山笠

遠賀町には老良山笠と島津山笠があり、ともに五穀豊穡と無病息災を祈願します。老良は個性豊かな人形が飾られた山車、島津は細い道でもなんなくすり抜けていく息の合った様子が見どころです。

この町がもっと好きになる

古くから伝わる由緒あるおまつりも、新しく始まったおまつりも、遠賀町に住む人々の暮らしを豊かにしてくれるものです。

「おんが」のまつり



みゆき 御幸祭り (尾崎)

3年に1回行われている尾崎地区のお祭り。7体の鼻高面(道案内の神様)を先頭に、地区内を練り歩き、御神体を神殿へ納めます。ほかにも、浅木神社の「夏越祭」や上別府地区の「高家天満宮秋季大祭」など、地域には古くからたくさんのお祭りが行われています。



夏まつり 千人踊り

夏まつりのメインプログラムともいえる「千人踊り」は、毎年千人以上が輪になり盆踊りを踊ります。夏の夜空を彩る大迫力の打ち上げ花火で締めくくります。

50周年記念誌発行にあたり

遠賀町は、平成26年4月1日に町制施行50周年を迎えます。50周年から100周年へ、そして未来へ……。これまでのまちのあゆみを語り継ぐために、この記念誌を発行することになりました。故きを温ねて、新しきを知る。これまでの遠賀町を、これからの遠賀町へとつなげていきます。



遠賀町長

原田正武

本冊子は、その時代の出来事を写真で分かりやすく説明しました。「むら」から「まち」へと移り変わりゆく遠賀町の様子を、見て読んで感じてください。知らなかったことや新しい発見が必ず見つかるはずです。最後に、本冊子を編さんする中で、多くの町民の皆さんにご協力をいただいたことに厚く感謝申し上げます。

写真・資料を 提供してくださった方々

- 柴田 和明 様 (9頁下)
- 柴田 征一郎 様 (3頁左下・6頁右上)
- 田中 日出夫 様 (3頁上)
- 旗生 良徳 様 (4頁下・26頁上・28・29頁)
- 林 静子 様 (11頁)
- 松本 武信 様 (6・7頁下・20頁右下・21頁上・21頁左下・22頁右上)
- 芦屋歴史の里 (8頁下・9頁上)
- 社会福祉法人 遠賀会 遠賀川保育園 (3頁右下)
- ㈱おんが自動車学校 (17頁上)
- 福岡県立遠賀高等学校 (16頁右上)

取材に協力してくださった方々

- 泉原 藤生 様
- 井上 博文 様
- 柴田 和明 様
- 田中 日出夫 様
- 旗生 良徳 様
- 松本 武信 様
- 森田 誠之助 様
- 永田 美容院
- よしや食堂

※個人名と施設名は分け、五十音順で掲載
※個人名と店名は分け、五十音順で掲載
※内は掲載場所
記念誌作成にあたりましては、多数の写真や情報をお寄せいただきましてありがとうございました。紙面の都合などにより、すべてを掲載できなかったことをご承知ください。